

山日記 李徵の性格分析

人間の時の李徵はどんな人物のタイプに分類されるか考えてみよう。心理学での性格分類は様々なが、今回はユング（1875～1961 スイスの精神科医。分析心理学の創始者。）の性格分析に当てはめてみよう。

【課題】 [1]について、李徵の人となりを判断し、【分類A】・【分類B】から一つずつ選んで何タイプかを考える。複数のタイプにあてはまるかもしれないが、「どちらかといえば」ということで、一つに決めよう。

【分類A】

I 外向的 II 内向的	周囲の環境に対し非常に自然に振舞つて自由な感じを与えるが、しかし、その人自身の存在が感じられない。周りに合わせることが主たる目的となつていて、	
	周囲の人やモノよりも、自分中心に注意が回つて、周囲にそぐわないので、どこか不自然で窮屈な感じを与える。	

【分類B】

非合理的 ④直感タイプ	客観的に論理的思考に基づいて考える。行動の理由が説明できる。	
	①思考タイプ	②感情タイプ
③感覺タイプ	主観的に好きか嫌いかを自分の感情に基づいて考える。	感覺（五感……視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚）に基づいて決める。

つまり、【分類A】と【分類B】のそれを組み合わせると、八種類（I①～II④）のタイプが存在する。（参考 <http://www12.ocn.ne.jp/~yukine/chara/type2.html>）

さて、李徵はどのタイプになるか考えてみよう。

B	A	分類
①思考タイプ ②感情タイプ ③感覺タイプ ④直感タイプ	II 内向的 I 外向的	○を付ける

そうだと判断できる表現を教科書から抜き出す。

タイプ別性格分析

I ①外向的思考	II ①内向的思考	I ②外向的感情	II ②内向的感情	I ③外向的直感	II ③内向的直感	I ④外向的感覺	II ④内向的感覺
このタイプは客観的で、合理的な考え方の持ち主で、リーダーシップをとる。その分、客観的な知性の結論を大事にするあまり、感情を抑圧しがち。（情面において未発達）また客観的事実を基に作られた思考形態にある程度の幅を持たせることができる人なら社会において有能さを發揮する可能性を持つ。それが狭量なものであつた場合は独りよがりになりがちである。（*参考に一”くすべきである”くねばならない”型）	その場の雰囲気やメンバーの思惑に関係なく、独創的な発想をするが、自己中心的に陥りやすい。	このタイプは適応性と柔軟性によって、周囲からの評価を得られやすい。一見、自己本位の行動が多いが他人と調和する意見に落ち着くことが多い。（意見に主体性が見られない）自分の中にある主観的本質より合理的欲求を自然に求める傾向にある。そこには感情の過程のみが存在し、感情の主体となるものが存在しない。以上のことから感情の変化につられ”気まぐれ”ヒステリ”といった傾向に陥りがちである。（*参考に一”そうでありたい”型）	このタイプは安定した状況下よりも、常に新しい状況（対象、方法）を求める傾向にある。外的な客体に興味を持ち（注一客体に興味を持つのはあくまでそれが新しいステップへの鍵となる場合のみであり、しかも一時的なものである）、そこから自分独自の可能性や価値観を見い出すことに一だわり、感情を表に表現することが極端に下手である。	このタイプは、周囲の人々に新しいことに向かう勇気を与える。行き過ぎてしまうと自分自身に疲弊と空虚さをもたらすこともある。（行きつく所、自分にふさわしくない異性にひかれたり、見込みのない対象に縛られるといった面を持つ*参考に一ひらめき型）	独特のひらめきの持ち主で、外界の価値には関心を持たず自分の内界の価値にこだわり続ける。夢想家（予見者+芸術家）に多く見られるタイプ。夢想家は除く?などに多くみられるタイプでもある。このことは他人に対しても同様で、周囲の人々に新しいことに向かう勇気を与える。行き過ぎてしまうと自分自身に疲弊と空虚さをもたらすこともある。（行きつく所、自分にふさわしくない異性にひかれたり、見込みのない対象に縛られるといった面を持つ*参考に一ひらめき型）	このタイプの人は客体（の表面）よりもその背景にあるものを見ようとする傾向にある。（直接、客体自身とは関係を持たないということ）すぐれた表現能力を持つていれば芸術家などの分野で才能を表すが、一般的には落ち着いた受動性、理性的な自己抑制が働き平凡な現実と自閉的な生活に満ち足りた日々を過ごすことが多い。	このタイプの人々は客体（の表面）よりもその背景にあるものを見ようとする傾向にある。（直接、客体自身とは関係を持たないということ）すぐれた表現能力を持つていれば芸術家などの分野で才能を表すが、一般的には落ち着いた受動性、理性的な自己抑制が働き平凡な現実と自閉的な生活に満ち足りた日々を過ごすことが多い。